

第一学年生活綴り方指導案

授業者 四橋 知子<大阪>

1. 指導題目 『文章の主題を意識して、選び取る』

2. 指導観

① えにかいて おはなししてね

入学して一番初めの登校日、4月10日が1年1組の子どもたちが綴り方に出会った最初の日である。生憎の雨模様となったその日、「あさ、がっこうにくるまでのことを えにかいて おはなししてね。」と、子どもたちに話し、口述日記をスタートした。日記をかくときは「本当にあったことをかく」「自分を入れて絵をかく」ことを約束した。そして、その絵の場面は何をしているところか聞き取り、文章にしていった。

(4月10日の日記より)

「へいき」 あゆみ
ひとりで がっこうきた。
こわない。
だって、2かいれんしゅうしたから、
へいき。

「はよきいや」 やすただ
おにいちゃんが こたつに もぐっとっ
たから
「はよきいや。」っていうた。

最近、就学前にひらがななどの学習をしている子も少なくない。まだ学校で習っていない状況なのに、字が書けないことになんとなく劣等感をおぼえている子もいるように感じた。「えんぴつ、じょうずにもたれへん。」「なまえうまいことかかれへん。」という子に「絵だけかいてごらん。おはなしは先生が書くよ。」という「そうなん。」と表情があかるくなった。口述日記にとりくむことで、どの子も同じスタートラインで「つづる」経験をもつことができた。

② どんなことを かこうか

日記を書くときには「じぶんだけしか知らないことをおしえてね。」「きょう、はっけんしたことをおしえてね。」「いつもとちがったことをおしえてね。」と題材を意識するように声かけをした。

しかし、「なんもかくことない。」「なんもなかった。」という子や、「(絵を)かかれへん」という子もいた。題材をうまく見つけられない子、どうやってかいたらいいのかがわからない子に一つでも「書きたいこと」をみつけさせたいという思いから、作品鑑賞の時間をもった。作品を紹介した後「こんなこと、みんなもないかな。」とたずねると、「ある!ある!」「ぼくもなあ・・・」「うちんちはなあ・・・」「わたし、きのうなあ・・・」とあっちからもこっちからも声があがった。「じゃあ、今度はきちんとおぼえておいて、日記にかいてね。」と話した。色々な作品にふれる中で、子どもたちは「こんなこともかいてええのんか。」と、視野を広げていったように思う。

鑑賞することで、子どもたちのもっている「書いていいこと・だめなこと」という概念をとりはらうことができた。「そんなんやったら、ある。」「そんなおもしろいこと、みつきたい。」と、子どもたちの書く意欲を喚起することもできた。

子どもたちに見つめさせたい題材（家族のこと、自然のこと、社会のことなど）の作品をとりあげ、「こんなんしたこと（みたこと・きいたこと）ないかなあ。」と投げかけることで、「今度やってみよう。」「こういうことがあったら、じっくりみておこう。おぼえておこう。」という態度を育てることもできた。

「おしっこけんさ」 れいな
おしっこのけんさ わすれて
じゃーって ながしてもうてん

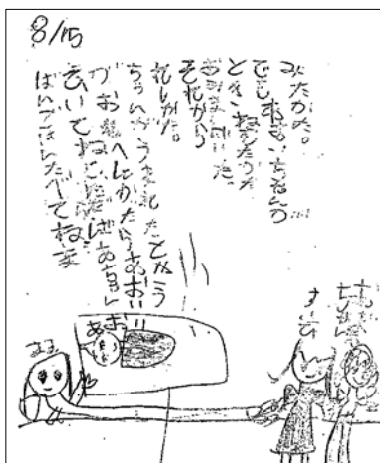
「だっこ」 さらさ
おねえちゃんのつぎに いろはだっこし
た。
だっこして いろはのおなかに ほっぺ
たつけた。
いろは かわいいな。

日記を続けていく中で、学校であったことしか題材にとりあげなかった子から、家族のこと、自然のことがでてくるようになった。学級の友だちの作品を読みあううちに、「なんでもいえる、つづれる」ことの深まりが少しずつみられるようになった。朝、くしゃみをした拍子におしっこをちびってしまったこと、ズボンを前後反対にはいていることに気づいて外で履き替えをしたことなど、自分の失敗も書けるようになっていった。また、それを読んだ子どもたちも「そういうことってあるよな。」「わたし前にこうしたことあるわ。」「ぼくやったら、こうするな。」と共感を持って一つひとつの作品を受け止めた。

わたし自身、一人ひとりとむきあい話を聞く中で、その子の思いや、生活、人とのつながり、興味の対象が少しずつわかること、表面上ではない「子ども理解」が少しずつ深まっていく手応えを感じた。

③ だれがよんでも わかる文章をめざして

ひらがな学習が進むにつれ、子どもたちに書けるところはひらがなで書かせていった。「書きことば」と「話しことば」の違いを意識させていくために、したことの文末を「～ました。」（展開的過去形）で書くことを指導した。



ばんごはんたべてねまひいて、ねたら、ばあちゃんがおれへんかったら、あおいちゃんがうまれたとき、うれしかった。それから、おみまいにいったとき、ねむかった。でもあおいちゃんがみたかった。（8/15）

一人で書いた最初の文はやはりわかりにくい部分、足りない部分が多い。子どもと一緒に「思い出しなおし（推考 足りないところを示し、その部分を付け足したり書き直したりしていく。）」の作業を経て、作品を創りあげていった。

「あおいちゃんがうまれた」

すいひ

ばんのこと

八月十四日、ばんごはんをたべたあと、ねまをひいてねました。おしっこがしたくなってめがさめました。トイレにいったあと、いつもとなりにねているばあちゃんがいてませんでした。びっくりして、（かくれてるのかな。）とおもいました。いえのなかのトイレとふろとテレビのうしろをみました。いつもばあちゃんが、かくれんぼのときにかくれるからです。でもいませんでした。げんかんにでようとしたら、ばあちゃんのくつがありませんでした。

「よなか、おきて、ばあちゃんがおらへんかったら、ようじか、あおいちゃん、うまれたときやで。」ってまえにばあちゃんがいていました。だから、あおいちゃんがうまれたんやなどおもいました。ねむかったから、おふとんにはいってもういっかいねました。

子どもたちは、め・みみ・くち・はな・て・あし・ころろをはたらかせて、題材をみつめ、少しずつくわしい文章を書けるようになってきている。

だが、主題を一つに絞らずだらだらと羅列して書く、主題からはずれていることも書くなど、不十分なところがまだまだ多く見られる。だれが読んでもわかる文章が書けるようになるためには、これからも「何が書きたいことなのか」を考えさせ、見つめさせる指導が必要であることを強く感じる。

来年度はクラス替えもあり、二十九名の子どもたちに担任として関われる時間は残された数日である。本授業では、子どもたちと主題を選び取って書くことの大切さを確認し、文章表現力のさらなる成長をうながしたい。また、生活の中から「ねうちのあること」を見いだす目を育てる一つとしたい。そして何より、自分の思いや生活を語ることのできるなかま、うけとめあえる集団の心地よさを確信し、4月からの新しいなかまづくりにつなげたい。

（Aについて）

Aは、ひらがな、カタカナの定着に時間がかかり、文章を書くことへの抵抗が強かった。そのぶん、「読めた」「書けた」ということへの喜びは大きい。とりわけ、文章が長く書けるようになってきていることは、目で見て書いた量が増えるのがわかるので、できた実感もてるようで大きな喜びとなっている。日記や国語のワークシートなどで、たくさん書けたときは、びっしりとかいたノートを「先生、みてえ。」と得意そうに見せにくる。しかし、その内容として、一つのことをよく思い出して書いているのかというところではなく、①一つのことを少しずつ表現をかえて繰り返し書く②主題とずれたこともだらだらと書く③おもったことを何度もつけたして書くなどを繰り返すことで「長く」書いている。

本授業では、題名とあわない文をさがすことで、文章の中の必要な部分・いらぬ部分に気づかせていく。Aには、「だらだらと長い文」と「短くてもわかりやすい文」の違いに気づかせ、今後のより確かな文章表現力育成につなげたい。

3. 指導目標

- 主題（書きたいこと）を選び取る。
- 主題を意識して、文章を書く。

4. 指導計画【全2時間】

- ・主題について考える。（本時1／2）
- ・主題を意識して、文章を書く。

5. 本時の目標

- 文章の主題を考え、話し合う。

6. 本時の展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 記述指導の内容をふり返る。	○～ました。～ました。（展開的過去形） ○じゅんばんに ○書きたいことを一つえらぶ（主題を一つに） ○目・耳・鼻・口・手・足・ころをはたらかせる ○いつ・どこで・だれが・なにをして・どうなった ○「 。」を入れる（会話文）
2 文章を読み、自分ならどう直すかを考え、出しあう。	・記述の内容について気づかせる。 ・何を主題として選んでいるのか、どの点が良いのかを意識して読ませる。 ・主題を意識させ、自分の今後の主題選びにもつなげさせる。
3 作品を鑑賞する。	

◆授業の記録◆

- T 今からの勉強は、何でしょう。
- C (口々に)つづり方。
- T つづり方の勉強をします。みんなですべて守って欲しい約束、いくつかあったね。あれ、大事やでというの、いくつかあったね。あれ。
- C (口々に) 目、耳、鼻、口、手足、心。
- T 口々にやったら、わからへん。
- C 目、耳、鼻、口、手足、心を。
- T …を、どうすんの？
- C しっかりはたらかせる。
- T いっぱい使わなあかん。つづり方は、ぼうっとしてたらでけへん。
- C 自分、家族、友達、先生、自然、社会を、どれか一つにする。

T どれかを一つ、選ぶ。そうやったね、覚えてる。
C いつ、どこで、だれが、何をして、どうなった。
C (口々に)いっしょです。
T いつがないと、いつのことか、時間がわからん、どこでは、場所がわからん。だれが、がないと、わからんな。……
C まだあるの？
T まだある。
C 最後には、「ました。」を使う。
T あかんのは、何やった？
C (口々に)して、して、して…
T そやな。て、て、て、は、病気になってしまうねんな。
C 最後に、「おもしろかった。」って、つけない。
C 何がうれしかったか、書くねん。
T そう、何が、いるねんな。他に、まだある？
C 「」(かぎかっこ)、「。」、日にち、題名を、書かなあかん。
T かぎかっこって、何？
C (口々に)しゃべったこと。
T それと、題名がいるね。題名がないと、何書くか、わからんもんな。それと、
C (口々に)日にち。
C 「」の次、て、いいましたは、と、いいましたで、「」の下じゃなくて、横に書く。
T て、というより、と、の方が、かっこいいな。じゃあ、今日は、おもしろいつづり方。(プリント配布)後ろ向きで、配ってな。
T 届いた？3210、はい、読んで。
C (一斉に読む)「ねしょんべん」や。
T 題名は何？
C (口々に)ねしょんべん。
T 「ねしょんべん」って、何？
C (口々に)しっこもらしたこと。ねてしょんべん。
T おもらしとか、いうなあ。そのことを、つづり方にしています。みんなは、したことある？
C (口々に)あります。ない。ある。
T 先生は、あるで。
C (口々に)ある。赤ちゃんの時。何回もあるで。
T この人は、どんなことがあったのか、読みます。(読む)
C (口々に)冷たいの？ぬるいの？あったかいの？かわいてた？次どうなった？
T どうやろなあ。
T 上手なのは、一つのことを選んで、そのことばかり書いてる、ねしょんべんのこと、ずっと書いてる。
C 題材の、「自分のこと」です。
T そやな、題材は、自分のことです。プリントはあげますから、おうちで、お母さんに、読ましたげてな。
T 今日は、もう一つ、また、ちゃうの。(プリント配る)後ろから見て、どんな感じ？321、ハイ。読んで。
C (一斉に読む)

- C (口々に)長い。一つに、しぼってない。全部、書いてる。一つになってない。何書いてるか、わかれへん。いっぱい書いてる。
- T 一つになってない、一つにしぼってない、いっぱい書いてる。先生、いっぺん、読むわな。題は、何でしょう。
- C (口々に)おまつり。たけしってだれ？
- T 読むで、番号は、読まないで。(読む)
- C (口々に)何かおかしい。
- C おまつりのこと、書いてない。
- T ほんまや。
- C 遊びのことばかり。
- T この子は、何を一番書きたかったの？
- C (口々に)おまつりのこと。
- T もう一回、読むで。この題、ちょっとおいといて。ほんまは、何を書きたかったのか、もう一回、考えてみてな、読むで。(読む)
- C 家の中に入ったことか、おまつりのことか、遊んだことか、一つにまとまってない。
- T 気になったこと、言うて。どこ、直したらいいと思う？どないして、直す？
- C 「ました。」じゃなくて、「いった。」とついでるけど…。
- T さっき、みんな言ってたね。
- C おまつりのことやのに、遊んでることになってる。
- C (口々に)いっしょです。
- C もういっこあるで。
- T 「おまつり」やのに、ちゃうこと書いてる。ほかに。
- C 「おまつり」って書いてるのに、パイナップル二こ食べたら、すっぱかったとか、家の前まで、ホームラン競争したとか、いっぱい書いてる。
- C 一つにまとめんとあかん。
- C おまつりやったら、おまつりって、まとめやんと、あんまりわからん。
- C て、て、になってる。
- C 一番最初は、題に、「おまつり」で、おまつりに行ったと書いてるのに、途中から、家に帰ってホームラン競争して、ほんで、最後に、家に入ったらというところは、途中からちゃうことになってる。
- T ちがうことって、わかった？
- C おまつりのことやのに、違うこと書いてる。おまつりのことを。
- T じゃあ、先生、番号書いてるな。①番から、何番まで書いてる？
- C (口々に)④番まで。
- T おまつりのこと書いてるの、何番？あつ、忘れてた。(黒板に大きな紙を貼る)見える？①番は、おまつり？
- C (口々に)①番。
- T 赤で、○するね。②番は、どう？みんなで、読んで。
- C (一斉に)「そこで、こうちゃんにあった。」(読む)
- C (口々に)おまつり、ちゃうでえ。おまつりで、会ったことになってる。
- T おまつりで会ったから、OKか？なるほど。三つ目、次は？せーの一で。
- C (一斉に)「また、家に帰った。」
- C (口々に)家？

T △に、しといたろか。みんな、おまつりやで、おまつり、さがして。④番、読んで。
C (一斉に)「また、こどもまつりにいった。」(読む)
T ○か、はい、順調や。
C ここからがあかんねん。
T ⑤番いくで、せーのーで、
C (一斉に)「パイナップルを二こたべたら、べろがすっぱかった。」(読む)
C どこで食べた？
T パイナップルのことになってる。
C (口々に)家。パイナップルのこと。
T 色、変えようか。パイナップルやから、黒で、パ にしとこう。⑥番にいきましょう。
C (一斉に)「としょかんの水のんでも、ちょっとだけすっぱかった。」(読む)
T これは？なんのこっちゃ。また、パイナップルか？
C パイナップル。
C と とちやうの？
C パイナップルのことやで。
T まだ続いているの？パ。次、ぐらいどうや？⑦番目、自分で読んで。どっちやと思う？
C うちに帰って、お茶、飲んでる。(口々に)からなくなったって、おかしい。
T ほんまやな、ちょっと、おかしくなった。今まで、すっぱかったと言ってたのになあ。これを、直したらよかった。途中から、変わってる。⑦番は、パ で、よかった？次も、パ かな？⑧番め、読んで。
C (一斉に)「こうちゃんとホームラン競争した。」(読む)
T もっと、読んでよ。これは、何？
C (口々に)パ。ホ。あ。
T 遊びでも、ホ か。おまつりのこと、出てこんなあ。
C 四つでおしまい。
T ⑨番めは？おまつり、出てこうへんって、言ってるで。⑨は？
C まだ、ホ。
T ホ か。次は、何？⑨番は、何や。
C (口々に)話。ホ。
T ⑩番は、何？
C 遊びの話。
T 遊びの、あ にしとこうか。⑪番め？
C 遊びのあ。
T また、あ。⑫番めは？まだ、もどらんかな？
C (口々に)遊び。もとにもどらん。
T これ、あ で、かまへん？あと⑬番と、⑭番しかないけど。⑬番は、もどらんか？知らんぷりしてる、おかしい。⑭も。
C おまつりじゃなくて、遊びのことや。
T (黒板を指差しながら)前、見て、赤になったの、ここだけやね。次は、パイナップルの話。次は、ホームラン競争のこと。
C 遊ぶことや。
C (口々に)○○△○パパホホ・・・
C (口々に)遊びや。

- T みんなが、一番初めに言ったその通りや。いっぱいや。
C 一つにしやんとあかん。
T いくつのこと書いてる？ 1、2、3、…ちょっとよくばりすぎやな。
C 一つに、まとめやんとあかん。
T みんな、一年間勉強やったから、さすが、これは、一つのことじゃないなとみつけたね。「ねしょんべん」は、どうやった？おねしょとちやうこと書いてた？
C (口々に) 一つや。
T こういうのが、わかりやすい。こういうのが、上手。書けるようになってきたか？
C (口々に) まだ一。
T 気づくのが、いいことやねんで。きっと、わかるで。
時間があるので、次は聞く方。一個だけ、読んであげよう。この子は、どうやろ。一つのこと、書いてるかな。今、五年生です。(「オリオンざ」を読む)
日にちが変わったこと、わかった？ 日にちが変わっても、一つのこと。一つのことを書くということは、こういうことです。
(チャイム)
T 終わります。

資料

おまつり

一年 たけし

- ①きのうのあさ 十じぐらいに こどもまつりにいった。
- ②そこで こうちゃんと あった。
- ③また、いえにかえった。
- ④また、こどもまつりにいった。
- ⑤パイナップルを 二こたべたら、べろが すっぱかった。
- ⑥としょかんの 水のんでも ちょっとだけ すっぱかった。
- ⑦いえにかえって おちやのんだら、からくないようになった。
- ⑧こうちゃんと いえのまえまで ホームランきょうそうをした。
- ⑨0たい0でひきわけやった。
- ⑩こうちゃんが、「なにしよう。」て ゆうたら、ぼくが、「わからん。」て ゆうた。
- ⑪また こうちゃんが、「なにしよう。」て ゆうた。
- ⑫ぼくは、「でんつき。」て ゆうたら こうちゃんが、「いや。」て ゆうた。
- ⑬ぼくがこんど、「なにしよう。」て ゆうたら、「なにもせえへん。」て ゆうた。
- ⑭ぼくが、「こうちゃん。」て よんだら、しらんぷりして いえの 中に入った。

(松原市 天野里子さん指導作品)

ねしょんべん

一年 あきら

あさ、おきたとき パンツとズボンがつめたかった。ズボンをさわったら、ねしょんべんやった。

おかあさんにおこられるとおもったけど、おかあさんをおこした。

「おかあさん、ぼく ねしょんべんしてん。」といった。

おかあさんが ズボンをさわった。

「や、ほんとや なんで ねしょんべんするん。」とって、おこった。

「これも 生きてる しょうこや。」とって、下におりた。

ズボンをはきかえていると、おとうともおりてきた。

ぼくは、おとうとに、

「ようちえんのともだちに、『ぼくのにいちゃん、ねしょんべんもらしてんで。』てゆうなよ。」といった。おとうとは、

「うん。」といった。ぼくは、

「よかった。」といった。

(松原市 天野里子さん指導作品)

オリオンざ

二年 ときと

一月二十日、ぼくはあそびをおわらせて、ぼくと四年の大地くんとで、妹のひびきをほいくしよへむかえに行きました。

ぼくは、ひびきをよびました。時計を見ると、五時三十分でした。ひびきをまってる間、空を見ました。くらいから、星が見えました。

大地くんが南の方を見て、

「あそこに、一こ、星が見えるやろ。」とゆびさして言いました。ぼくは、

「うん。」と言いました。大地くんが、

「あそこと、あそこと、あそこで、四角になるやろ。」と言いました。ぼくは、

「うん、うん、うん。」と言いました。大地くんが、

「そのまん中に、三こあるやろ。」と言いました。ぼくは、

「うん。」と言いました。大地くんが、

「あれで、オリオンざやで。」と言いました。ぼくは、

「ふうん。」と言いました。

それから、三人で帰りました。

つぎの日も、ぼくはひびきをむかえに行きました。ちょっとおそかったので、ぼくは空を見ました。きょうも、オリオンざがありました。ぼくは、ひびきをつれて、星をながめながら帰りました。ちがう星も見て帰りました。

またつぎの日も、ひびきをむかえに行きました。まだ早かったので、星は見えませんでした。家に帰ってごはんの後、ママとひびきといっしょにかみのけをそめに行きました。

十時ごろ帰り、またオリオンざがありました。ぼくはママに、

「あれがオリオンざやで。」と言いました。ママは空を見て、

「ふうん。」と言いました。

(東大阪市 増田俊昭さん指導作品)